

第 51 号

発行日 平成 21 年 10 月 20 日
 九州森林管理局 指導普及課
 〒 860-0081
 熊本市京町本丁 2 番 7 号
 TEL096-328-3593 FAX096-326-7062
 E-Mail: ky_fukyu@rinya.maff.go.jp

みどりと 技術だより



育樹祭会場：雲仙市百花台公園

第 33 回全国育樹祭

長崎県雲仙市で開催！
九州の国有林をPR

10 月 4 日、「未来へと 夢をつないで 育てる緑」を大会テーマとした第 33 回全国育樹祭（主催：社団法人国土緑化推進機構、長崎県）が長崎県雲仙市の百花台公園で皇太子殿下をお迎えして、農林水産大臣、林野庁長官、九州森林管理局長のほか、緑の少年団や林業関係者等県内外から約 7,500 名が参加し開催されました。今回の育樹祭は長崎県で開催されたということもあり、豊かな森林を次の世代に受け継いでいく大切さとともに、平和のアピールが行われました。



緑の少年団の発表大会

会場では、九州森林管理局は長崎森林管理署と共同で、式典会場内の「おもてなし広場」に九州の国有林を PR する展示ブースを設けました。テントの入り口には、長崎署で準備した平成 3 年の普賢岳噴火により枯れた樹齢約 200 年の大杉の根株の円盤を展示しました。また、テント内には地元の長崎署や九州森林管理局管内の各地で展開している森林・林業の取組に関するパネルや写真をはじめ、成長の早い苗木（次世代優良苗）や花粉の少ない苗木を展示し、署の森林官や局の職員がパンフレットを配布したり、訪れた大勢の参加者の質問などの対応に務め、九州の国有林を大いに PR しました。

特に、九州間伐紙は静岡県や高知県など九州以外の参加者から間伐証明書や出荷量等について質問が集中、注目の的となりました。そのほかコンテナ苗等の入手先など多くの問い合わせがありました。

ひときわ目を引いたスギ根株の円盤の前では、たくさんの参加者が記念写真を撮ったり、年輪を数



年輪の数は？



テント内の様子



パンフレットを配布する職員

え樹齢を推測する子どもたちの姿も見られ、国有林の展示ブースは大賑わいでした。

平成21年度森林の流域管理システム推進発表大会

実施要領決まる!

11月11日～12日開催

今年度は22課題

平成21年度の森林の流域管理システム推進発表大会(主催:九州林政連絡協議会)は、例年どおり九州森林管理局の大会議室において、11月11日(水)から12日(木)の日程で開催されます。

今年度の発表大会には、局署や九州・沖縄県の関係部局をはじめ、森林・林業関係のコースを有する高等学校、木材販売を手がける民間会社、NPO法人などから22課題がエントリーされています。

高等学校の部では5つの高等学校がエントリー。昨年度までは熊本県内のみでしたが、



昨年の発表大会の様子

今回、今年の夏の甲子園に初出場した佐賀県立伊万里農林高等学校が、課題名「貴重な塩性植物を守ろう～塩性植物の保護活動と地域の環境～」で初参加。また、長崎市の真樹販売株式会社からは、昭和25年の山林経営開業以降、長崎県や熊本県に社有林を拡大し、厳しい経営環境にもかかわらず公益的機能と高品質材の生産(真樹柱材のブランド化)を目指す施業や森林の整備、販売網の確立などの現場第一線での取組事例の発表が予定されています。

部門別では一般の部において、林業技術部門に10課題がエントリーされており、林業技術や林業経営の分野での情報交換が深まりそうと、期待されています。

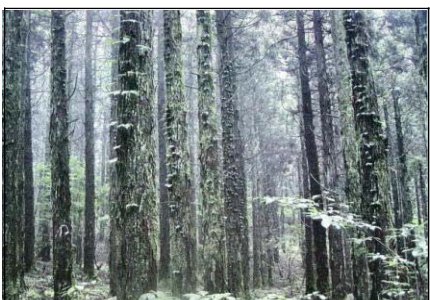
一方、特別講演は、宮崎大学農学部地域農業システム科の藤掛一郎教授と熊本大学教育学部技術科教育分野の田口浩継准教授の2名の先生が、「九州林業の展望」及び「森林環境教育」についてそれぞれ講演されます。

日時 平成21年11月11日～12日
 高校生の部 11日 10:45～12:15
 特別講演 12日 10:00～11:30
 場所 九州森林管理局2F大会議室

品種別展示林の間伐手法を検討!

九州森林管理局管内には、昭和42年から46年にかけて、スギ精英樹クローンと在来品種を比較植栽した37箇所「スギ品種別展示林」が設定されている。植栽は、1品種0.1ヘクタール、300本、3列の繰り返しで、中央列の中から40本を選び成長量を調査。展示林は、地形や地位に恵まれた箇所を設定されたため成長はすこぶる良いが、間伐が不十分なまま林齢40年を迎えている。

局担当では、展示林を適切に整備するため、林分の伐期や施業方法などについて局関係課等との意見調整を行いながら、今後も長期の品種間の比較調査が出来るよう、調査木の選定や保全方法を考慮した間伐手法を検討・実施することとしている。



河俣馬石
スギ品種別展示林
熊本南部森林管理署

11月6日
第2回九州森林・林業セミナー

11月8日
第4回九州森林倶楽部「サントリーの森」

11月11日～12日
森林の流域管理システム推進発表大会

11月16日
森林教室(川尻小学校)

11月21日
綾照葉樹林フォーラム

11月29日
綾プロ ボランティア作業

11月30日
綾プロ 連携会議

男女群島

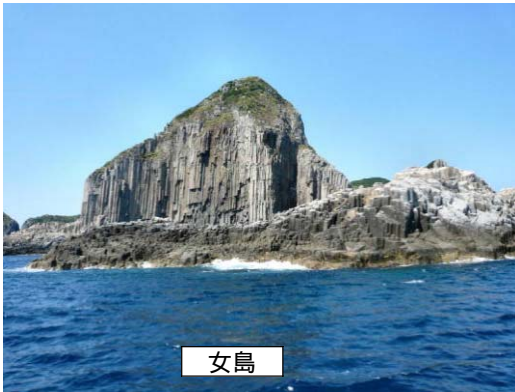
モニタリング調査

植物群落保護林の 計画検討委員会を

開催!

平成 21 年 9 月 29 日、九州森林管理局 5 階会議室において、「男女群島植物群落保護林モニタリング調査計画検討委員会」が開催されました。

委員会は、鹿児島国際大学の吉良今朝芳教授、長崎大学教育学部中西弘樹教授、森林総合研究所関伸一研究員、宮城勇朗計画部長をはじめ計画課及び指導普及課の関係職員と長崎森林管理署業務課長を加えた 9 名の委員に、受託者の日本森林技術協会渡辺太一常務理事等 4 名の事務局体制で構成。



女島



男島

まず計画部長が、「生物多様性を保全する取り組みの一環として、今回、地理的にも地形的にも非常に厳しい条件下にある男女群島のモニタリング調査に着手しました。安全に配慮しつつ確かなモニタリング調査ができるよう検討・助言をお願いします」とあいさつ。



男女群島

会議は吉良教授に座長をお願いし、事務局から男女群島の植生や生息動物、森林動態などの概況と、モニタリング調査の全体計画などが説明されました。

質疑では、男女群島全体が国指定の天然記念物（天然保護区域）に指定されていることから、長期プロットの設定方法や植物のサンプルの採取及び保存方法などについて、また、調査時期や厳しい条件下での安全確保対策などについて活発な意見交換が行われました。

なお、モニタリング調査は平成 21 年度及び 22 年度の 2 年間。平成 21 年度は既存の文献調査と現地状況の概況調査を行い、平成 22 年度に現地調査を実施し、結果を取りまとめることとしています。

【男女群島】



検討委員会

2009.09.29 13:27

長崎県五島列島の南西に位置する東シナ海に浮かぶ島々。男島、クロキ島、寄島、ハナグリ島、女島の五つの島からなり、面積約 415 ㊦。対馬海流が分岐する絶海の孤島であるため漁場に恵まれているが、海岸線は人を寄せ付けない断崖絶壁が島を取り囲んでいる。

島の殆どが国有林で、男女群島植物群落保護林に指定されている。また、魚付き保安林、航行目標保安林、鳥獣保護区（特別保護区）、史跡名勝天然記念物にも指定されている。

林相は、150 年生以上のタブノキやヤブニッケイなどの暖帯性広葉樹林が群生し、アコウやオオタニワタリ、クワズイモなどの亜熱帯性植物も自生している。

無人島とされていたが、昭和 40 年代の総合学術調査の際、男島の林内で人為的と思われる石垣が発見されている。平成 18 年 11 月、女島灯台が無人化され、以降島は無人島となっている。

第3回実践・公開講座 森を楽しむ:クラフト(新聞入れ)

8月23日、監物台樹木園において、第3回実践・公開講座「クラフト：新聞入れ」を開催しました。

今回は、「森を楽しむ面白塾」のメンバーなど17名が参加。九州森林インストラクター会の村尾昭志さんを講師に、新聞だけでなく様々な雑誌、お父さんも喜ぶ焼酎瓶も収納できる新聞入れを作製しました。

まず、村尾さんから作製方法について簡単に説明を受けた後、すぐに作製に取りかかりました。参加者は、最初はなかなか板を真っ直ぐに切れなかったり、釘を打ち間違えたりと使い慣れていない大工道具に悪戦苦闘。しかし、村尾さんの適切なフォローもありコツをつかんだ後は、次々に上手に仕上げ、予定よりかなり早く全員完成。スタッフは目を丸くしていました。



本当に上手くできています



一人で頑張りました

最後は、出来上がった作品を手記に記念撮影。自分で作った作品に愛着が湧いたようで、皆さん新聞のほかに何を入れようかとワクワクしながら、大事そうに持って帰られました。

はじめまして



企画係 永山 博美

今日の森林林業を取り巻く情勢は、地球温暖化防止に関わる森林の効用に対する国民の高い関心や期待などの追い風と、森林を守り育てる林業労働者の高齢化などの向かい風が一緒に吹いている感じに思えます。このような中で、指導普及課の一員として多くの国民の皆さんに森林の重要性の啓発や林業技術の推進等微力ではありますが、追い風が強くなるよう精一杯頑張りたいと思います。よろしく願います。

旬の花



ギンモクセイ

編集後記

鳩山首相が国連の演説の中で我が国が「温室効果ガスを1990年比で2020年までに25%削減することを目指す」と国際公約したことが、先日大きく報道されました。

地球温暖化防止のためには目標が何%であろうと、適切な間伐等の実施のほか、伐採された木を搬出し、未永く利用することを強く推進していくことが必要であると考えます。

今回の記事にもあります第三回実践・公開講座クラフト(新聞入れ)づくりのお手伝いをさせていただきました。小学生から年配の方まで本当に楽しそうに、そして真剣な眼差しで一生懸命クラフトづくりに取り組んでおられました。お手伝いをしながら、「木材を未永く使うことが、地球温暖化の防止に繋がるんですよ」というお話もさせていただきました。使用した木材はわずかでしたが、多くの方々が木に触れ、木に親しみ、未永く木を使っていたいただければと考えた一日でした。

指導普及課長 石神 智生

一枚からできる地球への思いやり

~九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています~



伝えたい木の文化、残したい美しい森
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」

